

兜について —なぜ違いができたのか—

美術班：奥野 智仁

1. はじめに

私は小学校・中学校の授業で絵画表現が苦手だったが、立体・ものづくりの分野に大変興味を持っていた。そこで課題研究のテーマとして考えたのが、兜についての研究である。最初に、世界中でどんな兜が使われてきたのかを調べたところ、地域によって兜にはそれぞれ特徴があり、大きなデザインの違いがあることが分かった。そこで、私は地域によってなぜこのような違いが表れたのかを調べることにした。兜についての調査と結果報告を美術班の発表としたい。

2. 調査、考察

世界には兜の種類は数えきれないほどあり、全てを対象に調べるのは難しい。そこで、西洋騎士の兜と戦国時代の日本兜に的を絞って調べた。

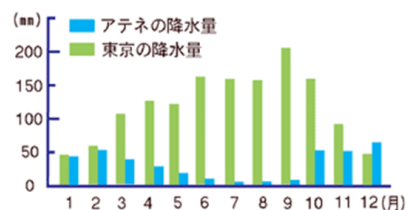
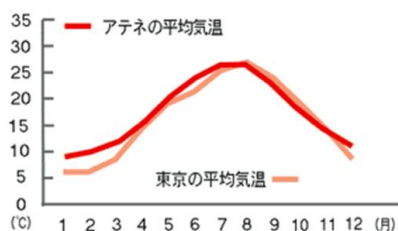
2種類の兜の最も大きな違いは、全面が覆われているか否かである。

それらの形状の差は、どんな要因で生じたのかを考えた。

(1) 気候と兜の関係

最初に、2種類の兜の形状の差は、気候の違いから生じたものだと推論し、確かめることにした。なぜなら、鎧を身につけて戦う場合、西洋甲冑のような全面が覆われた鎧の内部は相当蒸れるはずで、日本のように湿度が高い場所ではそのような甲冑は適さず、前面が覆われていない兜が生まれたのではないかと、という発想からである。

地図帳やインターネットを利用し西洋甲冑の誕生地とされるギリシャ(アテネ)と日本(東京)の雨温図を比較した。その結果、年間気温はほぼ同じだが、降水量は日本がギリシャより圧倒的に多い、というデータを得ることができた。よって推論通りの結果が得られたと考えた。



(2) 西洋・日本の戦い方の違い

次に、私は西洋と日本の戦い方の違いについて調べてみた。すると、西洋騎士は盾を持って戦うことが多く、剣や槍、こん棒といった近接武器（斬りつける他に、突きや殴打を手段とする武器）が主力であり、対して日本は盾を持たず弓を使うことが一般的であるということが分かった。日本の甲冑は馬に乗り弓を構えると隙が無くなるように作られているが、それに対して西洋の甲冑は初めから隙が少ないように作られているため、関節の可動範囲が狭く、弓矢を放ち難い仕組みになっている。このように使用する武器によって兜の形状が大きく影響されていることが分かった。他にも、日本では軍の大將が自ら戦場に赴くことが往々にしてあったので、味方に大將がいることを伝えるために兜を派手にしたという説があり、このことから戦の文化の違いが鎧のデザインにも影響を与えたことが想像できる。

3. まとめ・感想

調べてみると、兜の形状は単独で成立しているものでなく、多くの外的要因が関係していることが分かった。上記の理由以外に当時の身分制度の違いや、収穫できる農産物の差までもが、甲冑等武具の形状に影響を与えたといわれている。今回、兜に絞って調べてみたが、他の武具の形状についても相応の理由があるはずだ。

機会があれば、それらの違いも興味を持って調べたい。

4. 参考文献並びに参考 Web ページ

- Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%85%9C>
- google earth <http://www.google.co.jp/intl/ja/earth/>
- 世界の歩き方 <http://www.arukikata.com/>